

芦屋で記録したフユシャク類

西 隆 広

フユシャク類は、シャクガ科のホシシャク、ナミシャク、エダシャク各亜科の何れかに属し、フユシャクというまとまった分類単位はない。しかしフユシャク類は晩秋から早春にかけて羽化し、その間に交尾・産卵を終えること、また雌の翅は縮小し、全くとぶことができないこと等の特徴を共有するシャクガの総称であり、まとまった一群として捉えられることができる。

私は、蛾等昆虫一般を集め始めて10年余り、その間冬の楽しみの一つとして、芦屋市内の六甲山麓に広がる住宅街等の常夜灯に集まるフユシャク類を採集してきた。殆どが常夜灯に集まるものであるから、種名不明の雌を住宅の扉で得たほかは、雄ばかりの記録である。このようにして集めたフユシャクの市内での記録を集計すると13種となった。そして次のステップとして1993年の暮以降、夜間発生地に入り雌の採集を試みたが、今までに小数を得たのみである。したがって殆どが雄の採集記録に基づくが、ここで芦屋市内で記録したフユシャク類をまとめることにする。

なお文中、山麓部とは六甲山の麓の市街部から前山部に当たる標高80~200m程度の地域を示し、山中とはそれより高い六甲山域を示す。

① シロオビフユシャク *Alsophila japonensis* (Warren)

12月下旬に得ている。山手の住宅街から山麓部に記録がある。当地では記録数で見ると限りあまり多い種ではない。

採集例：1986.12.26 1♂ 芦屋市山芦屋町 (西 隆広 採集)

② クロテンフユシャク *Inurois membranaria* (Christoph)

12月下旬から3月中旬に得ている。中島によれば平地では長期にわたる発生が見られるとされているが、当地でも同様の傾向が見られる。普通種で山麓から山中に記録がある。

採集例：1991. 1.11 1♂ 芦屋市奥池南町 (西 隆広 採集)

③ ウスバフユシャク *Inurois fletcheri* Inoue.

1月中旬から2月下旬に得ている。普通種で山麓から山中に記録がある。

採集例：1991. 1.11 1♂ 芦屋市奥池南町 (西 隆広 採集)

④ ホソウスバフユシャク *Inurois tenuis* Butler

2月中旬から3月下旬に得ている。普通種で山麓から山中に記録がある。

採集例：1994. 2.19 1♂ 芦屋市城山 (西 隆広 採集)

⑤ ウスモンフユシヤク *Inurois fumosa* (Inoue)

12月下旬に山中で1♂を得ただけで常夜灯下で記録したものである。中島は普通種としているが、当地では稀な種かもしれない。

採集例：1993.12.26 1♂ 芦屋市奥池南町 (西 隆広 採集)

⑥ オオナミフユナミシヤク *Operophtera variabilis*

以前はナミスジフユナミシヤク (*O. brumata*) として扱われていたもので、その中に本種とコナミフユナミシヤク (*O. brunnea*) の2種が含まれていたことが判明した。*O. brumata* は旧北区に広く分布するが、国内には分布しない。当地では本種のみを確認している。12月下旬から1月中旬に得ている。普通種で山麓から山中に記録がある。

採集例：1991. 1.11 1♂ 芦屋市奥池南町 (西 隆広 採集)

⑦ クロオビフユナミシヤク *Operophtera relegata* Prout

12月上旬から下旬に得ている。普通種で山麓から山中に記録がある。

採集例：1993.12. 6 1♂ 芦屋市奥池南町 (西 隆広 採集)

⑧ シロフフユエダシヤク *Agriopis dira* Butler

1月下旬から3月中旬に得ている。普通種で山麓から山中に記録がある。夜間採集で交尾ペアを得ている。

採集例：1994. 2.19 1♂ 芦屋市城山 (西 隆広 採集)

⑨ クロスジフユエダシヤク *Pacyerannis obliquaria* (Motschulsky)

11月下旬から1月上旬に得ている。本種は主に昼間に活動するが、常夜灯下で見られることもあり、夜間採集時にも飛翔個体を採集している。山麓から山中までのコナラ林に多い。

採集例：1993.12. 5 1♂ 芦屋市奥山 (西 隆広 採集)

⑩ チャバネフユエダシヤク *Erannis golda* · Djakonov

12月上旬から1月上旬に得ている。山麓から山中まで記録がある他、当地の平地部にある阪神電気鉄道の芦屋駅の常夜灯付近に静止している個体を2例目撃しており、市街平地部での発生も伺わせる。本種の雌、12月下旬と1月上旬に行った夜間採集時にコナラの樹幹で得ている。

採集例：1993.12.30 1♀ 芦屋市奥山 (西 隆広 採集)

⑪ チャオビフユエダシヤク *Phigaliohybernia fulvifula* Inoue

2月中旬から3月下旬に得ている。山麓から山中まで記録があるが、記録の中心は山麓部である。山麓部での夜間採集時には飛翔個体を採集している。本種は、東海地方から近畿地方にかけて産地があり、大阪府の箕面公園は多産地として有名である。また最近九州北部でも得られた。しかし現在までの知見で

は分布は必ずしも普遍的ではなく、かなり局地的なものである。記録は3月上旬に集中しており、当地では必ずしも稀な種ではない。特に1994年は3月上旬を中心にかなりの発生があった。

ところで東北地方での発生期は、2月上旬から中旬であり、3月上旬が記録のピークとなっている当地とは発生期が異なるようだ。ただ当地の記録は主に灯火に飛来した個体に基づくものなので、今後発生地内の個体数の変動を通して確認したい。

採集例：1991. 3. 9 1♂ 芦屋市奥池南町（西 隆広 採集）

⑫ シモフリトゲエダシャク *Phigalia sinuosaria* Leech

2月上旬から3月上旬に得ている。山麓から山地の常夜灯でよく見かける普通種である。

採集例：1991. 2.11 1♂ 芦屋市奥池南町（西 隆広 採集）

⑬ シロトゲエダシャク *Phigalia verecundaria* (Leech)

3月中旬から下旬に得ている。山麓から山中まで記録があるが、記録数は山麓部で多くなっている。普通種であるが、一般に前種より少ない。しかし1994年はかなりの発生があったようで、記録数は前種より多かった。

採集例：1987. 3.15 1♂ 芦屋市山芦屋町（西 隆広 採集）

中島¹⁾によれば現在まで確認されたフユシャクの総種数は35種、また各地の記録数は北海道地方22種、東北地方25種、関東地方32種、中部地方33種、近畿地方15種、四国地方10種、九州地方18種（中国地方は報告がなく、除いている）近畿地方の種数は他の地方と比較して少なく未発見の種の存在が幾つか考えられることを指摘している。このことは、面積僅か17km²の、しかも低山城が中心のごく限られた生態環境しかない芦屋市内に、近畿全体のフユシャクの9割近くが生息するという不自然な結果からも伺える。

今後の調査が待たれるところである。

（参考文献）

- 1) 中島 秀雄 1993 冬に出現する尺蛾-新・フユシャク類の採集-やどりがNo.152 2-28
- 2) 井上 寛ほか 日本産蛾類大図鑑 講談社